



TITLE:

労働組合組織に関する一考察 - イギリス機械労働者の組織変化 -

AUTHOR(S):

前川, 嘉一

CITATION:

前川, 嘉一. 労働組合組織に関する一考察 - イギリス機械労働者の組織変化 -. 経済論叢 1953, 71(6): 382-398

ISSUE DATE:

1953-06

URL:

<https://doi.org/10.14989/132304>

RIGHT:

經濟論叢

第七十一卷 第六號

- 社會政策定義考 …………… 岸 本 英 太 郎 (1)
- 勞働組合組織に關する一考察 …… 前 川 嘉 一 (8)
- 日本社會政策史の分析視角 …… 向 井 喜 典 (25)
- 「福祉國家」とイギリス勞働者階級の窮乏化
…………… 星 島 一 夫 (51)
- 失業給付額よりみた英國社會保障の一性格
人 見 嗣 郎 (69)
-

〔昭和二十八年六月〕

京都大學經濟學會

勞働組合組織に關する一考察

——イギリス機械勞働者の組織變化——

前 川 嘉 一

一 序 論

勞働組合は、賃銀勞働者がその勞働生活の諸條件を維持し、且つそれを向上せしめるため、資本に對する反抗の機關であり、その組織の形態が、おかれた歴史的條件のもとで、勞働組合の一定の斗争目標獲得のための手段である限り、勞働組合の組織形態如何は勞働組合運動の伸長に大きく影響を與えるものである。まさしく、「組合形態」は「組合財政」とともに勞働組合運動の「鍵」たるものである。従つて、勞働組合運動に於て、勞働者階級が資本との斗いを有利に展開すべく、その主体的條件を整備するため、常に組織問題を課題とし、斗争の一環としてその解決に努める必要があつたし、現在に於ても提起され、解決に迫られていることは國內國外を問わない。

このように、勞働組合の組織形態の問題が財政問題にまして常に提起されるのは如何なる理由に基くものであるうか。勞働組合がその機能を有効に展開するために組合の組織形態は資本主義生産の發展段階に應じて、自己轉換の必要をもつからである。では資本制生産の發展の法則と勞働組合組織は一般的には如何なる關聯をもつものであるうか。獨占資本の段階に入り、組合の組織として産業別組合 (Industrial Union) が最も合理的、理想的形態とし

て考えられ、これは従來の職業別組合 (Craft Union) にかはりつゝある。産業資本の獨占資本への轉化＝職業別組合の産業別組合への轉化、この環をめぐつて、資本制生産の發展法則と労働組合組織の關聯を明かにするのが、本篇の意圖する點である。従つて、労働組合組織の分類と云う點には觸れない。

更に産業資本＝獨占資本＝職業別組合＝産業別組合、この組合組織變化の傾向が一國の具体的産業で如何に展開されたか、この點が第二の課題である。英國産業資本期の模型組合として最も代表的な職業別組合であつた、機械工合同組合 (Amalgamated Society of Engineers) の發展過程を組合組織の視點で明かにし、これによつて例示することにした。これは又十九世紀末勃興した新組合主義の追跡ともなる。

(1) 戦後わが國の労働組合は「企業別組合」或ひは「従業員組合」と呼稱され、所謂「企業別従業員組合」として急速に組織された。企業別組合を脱被し、斗争組織としての産業別組織への編成替が急務とされている。——労働組合運営論、高野實氏、統一的運動の展望、大友福夫氏

英國では戦後、産業別組合組織の科學的効果的且つ急速な再建の必要がとかれてゐる。N. Barou, *British Trade Unions*, 1947, p. 215.

(2) 例えは N. Barou, *Ibid.* p. p. 215, 216. 労働組合講話、山川均氏 一六六頁、労働組合大門義雄氏 五一頁
日本における革命運動の基本問題 神山茂夫氏 二二二頁、労働組合のはなし (上) 春日正二氏 一一六頁

二 資本制生産の發展と労働組合組織

労働組合運動は、歴史的な客觀的條件と主體的條件から導き出された政治的並びに戰術的結論によつて行われる。労働組合の組織問題は、その主體的條件の最も重要な要因である。もとより組織が運動の斗争母体である限

り、組織問題は政治的なものであり、政策の一局面としてとりあげられねばならない。しかしこのことは、如何なる質的内容をもつ労働者が、如何なる体制のもとにあるか、その存在形態の分析を否定するものではなく、むしろ、その現實評價を基本的前提とする。労働運動の理論は確乎たる經濟的基礎におかれ、經濟的分析より政治的に並び戰術的結論がみちびき出されねばならず、労働組合の組織問題も、その一面をなすからである。この意味に於て、労働組合の組織形態を考察する場合、基本的に經濟構造とそれに伴う労働者階級自体の構成、その相互關係が、即ち本質的には資本制生産の發展法則との關聯が分析されなければならない。

資本制生産様式の絶對法則は剰余價值の生産である。價值増殖が資本制生産の唯一の目的である。資本家は剰余價值増大の手段として生産力を發展せしめるのである。「資本主義の下にあつては生産力の發展はこの法則（『剰余價值の生産—前川』）に従う。利潤は資本主義社會における生産及び再生産を支配するところの究極の目的であり、決定的なモメントである。價值増殖の熱狂的渴望者たる資本家は何の顧慮するところなく人類を生産のための生産へ、従つて社會的生産力の發展へ驅り立てる」のである。資本主義の自由競争のもとでは商品の廉價提供が企業の存立條件となり、このことが改良機械と新技術の導入を余儀なくせしめるのである。「労働日の延長による生産の増進がすつかり駄目になつたこの瞬間からして、資本は全力をもつて且つ全く意識的に機械体系の發展を促進することによつての相對的剰余價值の生産に没頭したのである。」³⁾即ち資本制生産のもとの生産用具の改善、新機械の導入は、「資本家にとつては、必要労働時間の短縮の手段であり、剰余價值をつくり出す剰余労働時間の増大の手段」として用いられる。このような資本制生産の内在的法則剰余價值法則、それにもとづく生産力發展の資本制的法則は労働組合組織の變動にどのように現われるであろうか。資本主義の諸條件のもとでの技術的發展と労働組合組織

の關係はどのようなであらうか、第一の點である。

既に述べた如き、剰余價值増大の資本制生産様式に於て、生産用具、技術改善による生産力の増大は資本蓄積の一般的法則であり、それは資本の有機的構成の高度化として現れる。このことが労働者の編成をどのように變更せしめ、労働組合の組織とどのような關聯をもつものであらうか。これを資本の集中過程の視點より考察したい。第二の點である。

〔I〕「生産力の發展の法則はまず最初に生産用具に於ける變化を生じ、ついでこれと照應してこれらの用具を使用する人々をも變化する。」⁵⁾即ち生産力の發展は不可避免的に生産關係の變化を生ぜしめる。

大工業は機械をもつて起點とした。一産業部門での生産方法の革命は他産業部門に普及し、種類の異なる相互補充的な一連の作業機によつて、「機械体系」が採用され、「大工業はそれを性格づける生産手段たる機械そのものを支配し、そして、機械によつて、機械を生産せねばならなかつた。かくしてこそ初めて大工業は、その適當な技術的基礎を創造し、自分自身の足で立つたのである。」⁵⁾そして「大工業そのものの内部でも絶えざる機械の改良および自動的体系の發達⁷⁾」をみた。このような資本制生産様式の下での科學技術の意識的應用は十九世紀の最後の時期より一九一七年に至る第二次産業革命によつて徹底化した。即ち、第一次産業革命に始まつた作業の自動化は電気エネルギーの利用を俟つて徹底したのである。

このような資本主義の下での生産技術の意識的應用は労働様式、労働内容、労働力の編制にどのような變化を刻印するのであらうか。

機械体系に編成された労働者は、「機械の輪齒」であり、機械体系そのものが主体となる。労働者が主体として

位していたマニファクチャーのときに對し顛倒的關係となる。そしてその勞働形態は、勞働者の操業に必要な熟練を機械がこれにとつて代り、「單純なる協業」が行われるすぎない。即ち分化した相互補充的な一連の作業機による機械体系によつて、勞働行程は分解され、細分、専門化すると同時に、熟練の機械の移轉によつて、勞働の標準化、單純化が行われる。熟練勞働と不熟練勞働の限界は狹まり、手工的熟練の否定が生じ、婦人、兒童勞働力充用の條件をつくるのである。このことは資本主義生産より進み、自動裝置がますます完備され、特に獨占資本主の段階に到り、軍需生産の發展とともにより決定的となる。「自動裝置の工場に於ける分業の特徴は、そこまでは勞働が總ての専門的性質を失つてゐること」となり、又「機械のあらゆる改良の目的および傾向は、實は、人間の勞働をすっかり排除すること、あるいは成年男子勞働に加うるに婦人勞働および兒童勞働を以てし、または熟練勞働者に代うるに不熟練勞働者を以てすることによつて、勞働の價格を減少させることである。」と考へられる。¹⁰⁾

このように「勞働の分解」(Dilution of Labour)——勞働の標準化——熟練勞働の排除は勞働力編成、社會的勞働組織を均等化、水準化せしめ、從來の等級的編成は變更される。「マニファクチャー的分業を性格づける専門勞働者達の等級制のりに、機械の助手たちが遂行せねばならぬ諸勞働の均等化あるいは水準化の傾向が現れ」るのである。¹¹⁾

このことは必要的に勞働力の代替性を容易ならしめる。こゝに於て、從來の熟練勞働者が専門的技能に基いて保持していた勞働市場に於ける獨立的地位を喪失することは明かである。勞働者の主体は技能熟練勞働者より不熟練勞働者に移行する運命をもつ。従つて、熟練勞働者のみによつて、勞働力の需給の調整をはかり、それによつて、

勞働者階級の勞働諸條件を維持、向上しようとする職業別組合は、一般勞働者の勞働様式、勞働内容、その利害と遊離した孤立した組織とならざるを得ない。ここに新たな勞働組合組織、即ち、勞働過程の分解、勞働の標準化のもとに編制された勞働者に對應した組織（「産業別組合組織」）の課題が生れる。

〔Ⅱ〕 既に述べた如く、資本制生産の發達は競争によつて資本の擴大、資本の果進的な蓄積となり、資本の蓄積は多數の小資本の少數の大資本への轉化、資本の集中となる。

資本制生産の擴大によつて巨大な産業的分業の技術的手段が作り出され、集中によつて、それは勞働行程の益々大規模となりつゝある協業的形態に發達する。即ち集中は産業資本家をして經營規模を擴大せしめるのであつて、集中過程の發展によつて、單獨中小企業は經濟的存立條件を失ひ、（原料の高價格と製品の低價格）「個々の經營は不斷に増大する。同種の又は異種の益々より多くの經營が巨大企業に團結して」ゆくのである。そして、これは、カルテル、シンジケート、およびトラストの如き獨占到轉化する。それとともに資本の蓄積、集中、獨占到産業予備軍を増大することは人のよく知るところである。一方に於ては産業予備軍が増大し、他方に於て大多數の既役勞働者は巨大企業に集中せしめられ、且つ多くの異なる勞働過程に従事する勞働者が一つの体系のもとに包攝されることになる。從來の個別資本に對する勞働者の關係は獨占資本と勞働者という對抗關係に變り、且つ勞働者階級は獨占資本の聯合組織（「勞働者階級に對しては抑壓機關」）のためにポイコットの宣言、勞働力の遮斷等の壓迫をうける。

このような資本の集中、獨占による産業構造及び企業組織の變容、それにもとづく勞働力編成の變化、資本家組織の發生に起因する資本對勞働の權力關係の變動は、從來の細分された産業分野での小規模經營に對應して存立し

た勞働組合組織の變容を求めずには措かない。ここにも産業別組合組織への要請が生ずる。

資本制生産様式における生産力の運動、増大―資本の蓄積―資本の集中、獨占、この資本制生産法則が、勞働者の態様に如何なる關聯をもつか、従つて、勞働組合組織に如何に影響せずには措かないかを明かにした。これは資本制生産法則からの視点よりみたにすぎないのであつて、勞働組合組織はもとより斗争の一環としてあり、従つて階級斗争の條件がまたこれと相並ぶか或は對立してこれを豫め定めるものであることはいうまでもない。

では具体的に資本主義の發展に對應し、即ち、産業資本―獨占資本―職業別組合―産業別組合という原則的な勞働組合組織變容は如何にみられるであろうか。これが本稿後半の課題である。産業資本期に模型的組合として開花したイギリスの合同機械工組合をもつてこれを追析することにした。

- (1) J. T. Dunlop は勞働組合の型形成の基本的要因を次の四つの組合せによつて決定すると論じてゐる。即ち、一、自然的條件 二、技術と市場と資本蓄積の發展構造 三、社會の價值意識 四、社會の諸制度、――J. T. Dunlop, *The Development of Labour Organization: A Theoretical Framework*, p. 171.
- (2) アムズガウスドウィーユル共著「經濟學方法論の基礎」六―八頁
- (3) K. Marx *Das Kapital*, Bd. I, S. 430. 長谷部邦譯 第一卷 九五五頁
- (4) 同盟科學アカデミー哲學研究所 コンスマンチーノ監修「史的唯物論(上)」ソヴェト研究者協會譯 一九三頁
- (5) 前掲書「史的唯物論(上)」一三六頁
- (6) K. Marx, *Das Kapital*, Bd. I, S. 402. 邦譯 第一卷 九〇四頁
- (7) Derselbe, a. a. O., S. 397. 邦譯 第一卷 一〇〇四頁

- (8) 第二次産業革命は一聯の電気エネルギーの利用によつて飛躍的に發達したものである。即ち Werner von Siemens (1816—1892) Joseph Wilson Swan (1928—1914) Thomas Alva Edison (1849—1931) の諸發明に負うところが多い。第二次産業革命の技術發展については科學史大系物理術史 (2) 一八七—二〇六頁參照
- (9) K. Marx, 「哲學の貧困」マルクス・エンゲルス全集 改造社版 第三卷 五七六頁
- (10) Ure "Philosophy of Manufactures" S. 23. K. Marx, *Das Kapital*, Bd. I, S. 397. 邦譯 第一卷 100頁
- (11) K. Marx, *Das Kapital*, Bd. I, S. 441. 邦譯 第一卷 九七八頁
- (12) Derselb. a. a. O., S. S. 680. 803. 邦譯 第一卷 一三九六、一六六五頁參照
- (13) N. Lenin, *Der Imperialismus als jüngste Etappe des Kapitalismus*. 長谷部邦譯 二六頁
- (14) 前掲書邦譯 三六、三七頁參照

三 イギリス機械業労働組合の組織變化

イギリスに於て「機械業の諸団体は十八世紀の職業団体と等しく、地方的共済組合」として、イギリス産業資本の開花期である十九世紀中葉に機械工合同組合 (Amalgamated Society of Engineers) は結成された。これは當時英國労働組合組織の「新模型」として、熟練労働者のみによる獨占的排他的性格をもつ組合の典型であつた。即ち、イギリス産業資本期の労働組合組織は機械工合同組合によつて代表せしめ得るのである。その傳統が強ければ強いだけに新しい段階には保守性をもつ。機械工合同組合もその例外ではない。また、生産財生産部門たる機械業の構造變化は十九世紀末より激しさを増した。この二つの意味に於てこの組合の組織變化の追析は他の如何なる組合のそれよりも意味があろう。

既にふれた如く、イギリス機械労働者の組織は十八世紀末より結成され始め、團結禁止法撤廢後は急激な膨張を

示したが左記の通りその多くは地方的な組織“Local Society”にすぎなかつた。初期の組合、團結禁止法撤廢後の主要なものは次の通りである。

1799. Millwrights Union

1809. The Friendly Society of Ironmoulders

1818. The Friendly Society of Vicemen and Turners

1922. The Machinies Friendly Union: Bradford

1824. The Steam Engine Maker's Society: Liverpool

1826. The Friendly Union of Mechanics: Manchester

1833. The London Friendly Society of Engineers and Machinists

1836. The Amalgamated Society of Metal Planers

1838. The Journeymen Steam Engine and Machine Maker's Friendly Society (—the Old Mechanics)

1844. United Michine Workers Association

これらの地方的組織が Newton-le-Willams 事件を媒介として、一八五一年合同が展開され、所謂機械工合同組合 Amalgamated Society of Engineers—A. S. E. (以下「A. S. E.」と稱す)が組織されたのである。ここに Engineer, Machinist, Smith, Millwright, Patternmaker の合同が行われた。「一八五二年から一八八九年まで、合同機械技工場會の精緻なる根本規約は、一切の新しい全國的勞働團體のために模範となつた一方、古い諸團體は同組合の主要な特色をみずから徐々に體現しつつあつた」〔A. S. E.〕は「十九世紀初葉の熟練手工業職人の組織の排多的な政策を繼承していた。一八三〇—一三四年の一般勞働組合と違つて、彼等はその組合を法律的に年

期を入れた職工に限った。彼等の記録は「生産階級」のいかなる一般的組合よりも、むしろ異つた職業の法人団体という舊思想の痕跡をとどめている。」〔A・S・E〕は熟練労働者の既得権保護の原則によるものであつた。

その後、機械による機械生産が可能となり、各産業の原資材の變化を生じ、機械工業は著しい擴大を示すのである。（機械産業労働者、一八四一年—三万。一八九一年—二五万）

機械産業の發展のどうように機械労働者の労働様式、労働内容、労働編制に影響を与え（A・S・E）の組織は如何なる課題になつたのであろうか。

近代工業の發展は當然生産材生産部門への要求となつて現われ、イギリス機械工業は十九世紀中葉より不斷の生産力の發展を示した。その生産力の發展は目まじしい機械の改善、従つて機械の分類化となつたのである。Caps-tan, Turretlatte, Milling machines, Grinders, Boreers, Radial drills. 等夫々機能を別にする各種機械が製作され、Milling machine を例にとつてみても、一、二の型が十九世紀末には一〇—二〇の型に分化されている。

この發展は第二次産業革命期にあたる一八九〇—一九一五年の間に更に進められた。特に、この時期の特徴である電気工業、自動車工業の勃興はイギリスに於ても例外でなく、高度の機械生産の必要は機械の改善を促進し、生産の標準化 (standardisation) 専門化 (specialisation) 量生産 (quantity production) となり、一九〇〇年にはほぼ完成した体制をみる。即ち、労働過程の分解、所謂「労働の分解」が促進したのである。例えば、この時期には fitter の仕事は erectur, bench fitter, tool and gauge maker に分解した。

このような機械産業における機械の改善、それによる労働の分解、労働の専門化、標準化は、從來の熟練労働者の、一般的な不必要を生じ、「old men」に代うる「new men」の要求となつて現れた。〔組合 (A・S・E) のこと

the Engineering and Allied Employer's National Federation に屬する
工場の熟練、半熟練、非熟練、勞働者の比率

| 年 | 熟練勞働者 | 半熟練勞働者 | 非熟練勞働者 |
|------|-------|--------|--------|
| 1914 | 60 | 20 | 20 |
| 1921 | 50 | 30 | 20 |
| 1926 | 40 | 45 | 15 |
| 1933 | 32 | 57 | 11 |

(James B. Jeffcrys the Story of the Engineers. p. 207)

機械工業勞働者性別編制

| | 男 子 | | | 女 子 | | | 全數に對する 女子の比率 | | |
|-------------------------------------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|-----------------|-------|------|
| | (7月) | (11月) | (7月) | (7月) | (11月) | (7月) | (7月) | (11月) | (7月) |
| | 1914 | 1918 | 1920 | 1914 | 1918 | 1920 | 1914 | 1918 | 1920 |
| Engineering | 412.000 | 371.000 | 496.000 | 12.000 | 101.000 | 36.000 | 3 | 21 | 7 |
| Electrical Engineering | 80.000 | 89.000 | 114.000 | 16.000 | 56.000 | 39.000 | 17 | 39 | 26 |
| Marine Engineering and Shipbuilding | 289.000 | 435.000 | 433.000 | 2.200 | 31.000 | 6.800 | 1 | 7 | 2 |

(Kirk aldy; British Labour 1914—1921, p. 18)

勞働組合組織に關する一考察

第七十一卷

三九二 第六號

一八

「前川」のメモバーは機械工業に従事する九三の部異なる門で働く勞働者に、次第に開かれ、一八九二年と一九一四年との間に加入した全組合員の殆んど九〇%は fitters and turners とであつた」ということよりも明かであらう。熟練が機械に移轉されればされる程、熟練勞働者の必要は減少する。この傾向は第一次大戰による軍需に基く機械産業の發展によつて強められた。勞働者の編成は次の如き變化を示したのである。

特殊な熟練の必要は殘存したが、全般的には「等級制」に代うるに「均一化」専門的熟練者に代うるに不熟練勞働者、一九世紀末より一九二〇年にかけてのイギリス機械産業に於ける生産技術の發展がもたらした機械勞働者の變容である。前記「A・S・E」はこ

に至り、一般機械労働者よりは遊離し、孤立することは論をまたない。(A・S・E)の再編成に對する要望は高まる。

- (1) Sidney and Beatrice Webb, *History of Trade Unionism*. 1920. p. 219.
- (2) イギリス労働運動に於て産業別組織に早く移行したのとして *Miners' Federation of Great Britain* (1888) *National Union of Railway men* (1912) があるが、本文の理由から紙面の都合上割愛する。
- (3) *The Story of Engineers*. Published by the Amalgamated Union. 1951. p. 5-6.
- (4) Sidney and Beatrice Webb. *History of Trade Unionism* 荒畑義 上巻 111頁
- (5) 前掲書 荒畑義 111頁
- (6) James B. Jefferys, *The Story of the Engineers*. p. 51.
- (7) *Ibid.* p. p. 120. 126. 参照
- (8) *Ibid.* p. 124.
- (9) *Ibid.* p. 127.

では、第二にイギリス機械工業の資本の蓄積、集中、獨占はどのように機械労働者に變動を與えたのであろうか。イギリスに於て、十九世紀五〇年代の木綿工業の發達は著しく、生産財生産部門たる機械産業もこれに對應する生産の發展がみられる。即ち當時の主要生産品は纖維機械と蒸氣汽鍋であつた。この發展に際し、從來の個人經營は否定され、株式制度による企業規模の擴大が必要となり、これは一八五六—一八六二年の株式會社法(*United Liability*)の成立となつて現れたのである。株式會社法の成立は資本増加の可能條件を作り出し、一八八〇—一九〇年は機械工業に於ける經營組織の變動期であつた。かくして九〇年に株式會社制度はほぼ完成をみるのである。實質的には生産規模の擴大化がなされたのである。又この條件のもとに於て資本の集中が開始された。次に示すものはイ

ギリス機械産業の集中過程である。¹¹⁾

一八九六年—Sir W. G. Armstrong, Withworth Company, Ltd. の成立 Elswick の Messrs. Armstrong's 及 Manchester の Messrs. Withworth's の合併

一八九七年—Vickers による the Naval Construction and Armament Company, Ltd. 及 the Maxim Nordenfeld Gun Company, Ltd. の買収

一八九九年—John Brown's による Clydebank Engineering and Shipbuilding Company, Ltd. の買収

機械産業における資本集中の傾向はその後も強まる。¹²⁾ このような資本の集中過程は多くの企業家の所有權および利害の統一過程でもある。機械労働者のすべてのものが、この少數大資本によつて編制された。十九世紀末より機械産業の、労働者の資本との關係は、「A・S・E」が成立した當時のように、個別小資本に對するものではなくて、少數の大資本との對抗關係に移行した。しかもその對抗關係は資本權力の強化のうちに變容した。即ち一八九四年—Safding Committee の結成、一八九六年—Employer's Federation of Engineering Association の結成がみられ、特に後者結成の目的は「労働者の團結に對する雇主の利益を保護するため」につくられたのである。¹³⁾ このような労働者に對する資本權力の結集は一九一八年の the National Employer's Federation によつてはゞ完成された。同種の技能に結節点を求めて組織し、分散せし資本との對抗關係に立つて實現された「A・S・E」はその組織の再検討に迫られることになる。

(3) K. Marx, Das Kapital. Bd. I. S. 457. 邦譯 第一卷 一〇〇八頁參照

一八五八年

一八六一年

一八六八年

蒸氣機械數

二九八、八四七

三九九、九九二

三七九、三二九

結 鍾 數 二八、〇一〇、二・七 三〇、三八七、四九四 三三、〇〇〇、〇一四
就業人員數 三七九、二二三 四五一、五六九 四〇一、〇六四

(11) James B. Jefferys, The Society of the Engineers, p. 121.

(12) 獨占が完成するものは一九二七年の Vickers Armstrong, Ltd. の成立、一九三一年の The Textile Machinery Makers Co., Ltd. の成立及び The Associated Electrical Industries, Ltd. の成立による。James B. Jefferys Ibid. p. 201.

(13) Ibid. p. 143. (14) Ibid. p. 142.

右のようにイギリス機械産業の發展、それに伴う労働編制の變容によつて、十九世紀末より、「A・S・E」は組織問題を重要課題とすることになった。従來の、既に述べた如き「A・S・E」の典型的職業別組合組織は現實の條件と背離したものとなつたからである。ではどのように組織問題は提起され、解決されようとしてきたのであろうか。

前述のとおり資本との對抗關係の變化、労働編成の變容、これらの事實を「A・S・E」自身認めざるを得なくなつた。この事實が「A・S・E」の組織變更を要請したのである。即ち一八九二年のリード (Lead) での代表會議での決定は「A・S・E」の歴史的轉換点となる。

十週間に亘る新舊兩派の討論の結果、組合の基盤がこの決定によつて擴大され、始めて該當産業部門が electrical engineers, roll turners, machinemen を含めしめることになつた。¹⁵⁾ 従來の排他的政策は現實の前に屈しなければならなかつたのである。かしこの決定も實施されず、「A・S・E」は八時間制運動に移行し、組織擴大はその斗いの中に埋没し去つた。これに警鐘を與えるものが一八九七―八年のロック・アウトである。五七九企業、四五、

〇〇〇人(そのうちA・S・E所屬は二二、〇〇〇人)が争議に加つたが、前述の如き資本權力の結集のため、勞働者階級の敗北に終り、資本は新機械を使用する上に於ての勞働者の自由な確保、即ち、非組合員の自由な雇入に成功した。ここに至つて熟練勞働者の排除は決定的となる。敗北の原因は基本的には全國規模での機械勞働者組合間の眞の勞働統一戦線の欠如にあると考えられたのである。¹⁶⁾ 再び組織問題は再燃し、(一)基礎を擴大して、新入者を含めしめるか、(二)熟練勞働者の専門組合で發展するか岐路にたつた。「A・S・E」は他の近似組合との聯合、合同に解決の途を見出した。一九〇一年の代表會議で半熟練勞働者及び未熟練勞働者の取扱いが又々問題となり、彼等を組合に加入せしめて、一つの新たな部會を作るといふ提案は八〇%を以て否決された。ジョン・バーンズは「A・S・E」の政策について次の如く批判している。「一般のA・S・Eの組合員は、A・S・Eが熟練勞働者の組織に止まるべきであるということを、最も明白な態度で示した。私は彼がまちがっていると信ずる。」¹⁷⁾と。

第一次大戦が軍需生産を招來し、機械産業に多数の不熟練勞働者、未熟練勞働者を投入した事實は、前掲表示の通りである。彼等の意識は成長した。「組合役員は組合員大衆の從僕であり、大衆の主人ではない。」¹⁸⁾と考えるに至つた。このような組合員大衆のいづく新理念のもとに、工場世話役 (shop steward) の活動が生れ、その結果、遂に「A・S・E」の改組が行われて、一九二〇年合同機械勞働者組合 (Amalgamated Engineering Union. A. E. U.) (以下「A・E・U」と稱す) の成立となつた。大衆の要望 “all grades, both sexes of engineering makers” は「A・E・U」の成立によつても完成されなかつたのであつて、「A・E・U」は職業別組合としての性格を溫存していた。²⁰⁾ 斗争露は組織欠陥を呈する。一九二二年の「A・E・U」の斗争の敗北は、「A・E・U」の職業別組合の性格に基因した。然し、再び未熟練勞働者の加入は否決され、一九二六年の規約改正にまたねばならなかつた。

この改正によつて全男子労働者の加入が、仕事、熟練度、経験の如何に關らず認められ、その後の發展は緩慢ながらも産業別組織の整備に向つてきた。²¹⁾ 現在も向この課題は持續されている。「A・E・Uは職業別から産業別に急速に脱皮しつつある。これは古い熟練労働者によつては一般に嫌惡されているが、その考えは本質的によいものである。……かくて産業別組合への現組合の整備は重要である。……勿論、これは極めて困難な主張であるが、A・E・Uによつて産業別組合として有効に發展すること、これは必要である。」²²⁾まさに、傳統との斗いである。以上、「A・S・E」から「A・E・U」轉化の過程を中心として、イギリス機械労働組合組織の發展をみてきた。如何に職業別組合としての性格を傳統的に保持しようとしても、現實の經濟的條件がこれを許さない。資本主義生産の發展、これに照應した職業別組合組織→産業別組合組織という労働組合組織の原則的傾向は古い傳統の中にもつたイギリス機械労働組合にも認めざるを得ないのである。

(15) James B. Jefferys, *The Story of the Engineers*, p. 187. 參照

(16) *Ibid.* p. 145. 參照

(17) *Ibid.* p. 166.

(18) *Ibid.* p. 190.

(19) *Ibid.* p. 193. 參照「V・G・D」の成立に當つては「A・S・E」に Steam Engine Maker's Society, United Machine Workers Association, United Kingdom Society of Amalgamated Smith and Strikers 等六組合が合同せしむる。

(20) G. D. H. Cole.: *Organised Labour*, p. 29.

(21) 一九四〇年、年少労働者のために新部門設置、一九四三年婦人労働者の加入 James B. Jefferys I *ibid.* p. 259.

(22) A. E. U. *Journal*, July, 1952, p. 211. *The Future of Trade Unionism within the Engineering Industry*, by Bro. J. H. J. Durnell.

四 結 語

労働組合組織を資本制生産の法則の現点から考察することは、原則論として許容されるのであつて、現實には更に國家權力の問題、階級斗争の條件が視点に入らなければならない。又組織が斗争の一環である限り、大衆的統一への視点から組合組織を考えなければならない。もしこれらの諸点を考慮の外におくならば組織方式の機械的適用となり、労働組合運動に逆の効果を及ぼすことは明かである。そこに果すべくして果すことの困難な組織の課題があるわけである。この点は紙面の都合上觸れなかつた。

尙、イギリス機械労働者の組合運動については、極めて視点を限定して考察したのであつて、多くの問題点を残している。これについては別の機會に求めたい。